

平成30年4月5日（木）
平成30年度 第一学期始業式 式辞

秋田県立本荘高等学校長 今井 智幸

未来へのまなざしが、今を輝かせる～自分の壁を乗り越えて～

昨年度の一学期始業式では、キャリア教育実践モデル校の最終3年目を踏まえ、「未来へのまなざしが、今を輝かせる」というお話をしました。キャリア教育実践モデル校は、昨年度で無事終了しましたが、本校でのキャリア教育の一層の充実を目指して、「未来へのまなざしが、今を輝かせる～自分の壁を乗り越えて～」というお話をしたいと思います。

今年も、3年生の運動部・文化部の皆さんは、この春休み、全県総体や夏の甲子園予選、各種コンクールでの活躍を期して、どの部も遠征や練習に励み、勉学、部活動と充実した春休みを過ごしたことと思います。特に、3年生にとっては、今年度は引退をかけた試合となります。大会やコンクールに対する思いには、特に深いものがあると思います。だからこそ、きっと苦しい練習も乗り越えてきたはずです。私も、運動部に携わっていた頃、3年生にとって最後の大会に向け、将来困難に遭遇した時、自分を勇気づけ、乗り越える力となるような、生涯心に残る試合をさせたいと、いつも心に誓い、練習に大会に臨んでいました。

二学期の終業式で触れましたが、春高バレーで地元由利高校は、ベスト8の活躍、春の甲子園で由利工業高校は、強豪日大三高に敗れましたが、大きく崩れるようなこともなく、最後まで粘り強く力を出し切る立派な戦いぶりでした。

全国大会での地元の両校の活躍に奮起して、ぜひ来るべき大会では、たとえ対戦校が由利高校や由利工業であったとしても、決して怯むことなく果敢に挑み、最後まで競り合う戦いを見せて欲しいと思います。

実は、県内どこの高校の生徒も、部活動であれ勉学であれ、未来への確かなまなざしの下、今を懸命に努力しています。大会は、そんな各学校の選手の真剣勝負になるからこそ、見る人の心を打ちます。

「負けを無駄にしないように、この悔しさから始めよう」。

昨夏の甲子園で、大阪桐蔭高校は九回2死から逆転サヨナラ負けを喫しました。その翌日、西谷監督が選手に話しかけた言葉です。そして、昨日、春の甲子園で連覇を果たしました。敗北は、単なる負けではない。未来へ夢が託され、再挑戦の機会を与えられた試練であるだけです。選手、チームは、真剣勝負を通して、自らの強み、弱点を知る。だからこそ、悔しい思いを糧に、敗戦から立ち直りを学び、次の試合に夢を乗せて、練習の在り方を見直し、吟味し、一層練習に励む。そこに、「未来へのまなざしが、今を輝かせる」時間が流れ始めます。

それは、自己の、あるいはチームの可能性に対する飽くなき挑戦であり、自らの壁を乗り越えようとする努力です。しかし、すぐに練習の成果が現れないプラトー現象といわれる苦しい時期が、誰にでもあります。そんな時、疑念や限界、あるいは諦めがよぎることがある。壁にぶつかった瞬間です。その壁は、いったい誰がつくっているのでしょうか。そう、壁は他でもない自分が無意識につくってしまうものです。その限界とも見える壁は、はたして決して乗り越えられない壁なののでしょうか。

練習や勉強は、一つ一つの自分の壁を乗り越えようとする営みと言えるかもしれません。一つの壁を乗り越えると、次にもっと高いレベルでの壁が現れてくる。それを乗り越えると、また一つ更に高いレベルの壁が立ち現れてくる。

ひょいと楽しく乗り越えられる壁もあれば、本当に苦しんでしまう壁もある。しかし、その壁こそ、とりも直さず、自分にとっての壁であり、その壁を乗り越えようと努力する時、人は成長しているのだと思います。勉強や練習は、昨日の自分を少しでも超えようとする、いわば「自分への挑戦」です。だからこそ、壁を乗り越えることで、ひらける視界、視野があります。特に、青春期はそんな時期なのだと思います。

たとえ、^{つまず}躓いても怯むことなく、自己の可能性を信じ、ぜひ未来の扉を自ら拓く気概を大切にしたいと思えます。高校生は特に、未来へのまなざしによって、今を充実させるということが大切な時期です。物事に打ち込み、自己の可能性にチャレンジする姿は、実はとても輝いている青春の時間です。

最後に、直木賞作家 ^{いじゆういん しずか}伊集院 静 の『さよならの力』（講談社）の中の「旅立つ人へ—青春の日々」の中の一部を紹介します。

これは、新しく成人した若者と、新しく社会人になった若者へ、大人からのメッセージとして書かれたものの一部です。本の帯にある、「去りゆくものにほほ笑みを。切ない思いも悲しみも、やがて消える。季節は移ろい、そして新しい人とまた出逢う。」「別離を経験した人にしか見えないものが見えて来る。それは彼等が生きていた時間へのいつくしみであり、生き抜くしかないという自分への叱咤かもしれない。」という言葉は、このメッセージを生み出す背景の一つとなっています。

むかい風を歩くんだ。

…省略…

まずは家を出て、一人で風の中に立ちなさい。

そうして風にむかって歩き出すんだ。

歩きながら自分は何者であるかを問いなさい。

そうすれば君がまだ何者でもないとわかる。

それでも一人で歩くことがはじまりなんだ。

上り坂と、下り坂があれば、上り坂を行くんだ。

甘い水と、苦い水があれば、苦い水を飲みなさい。

追い風と、むかい風なら、断然、むかい風を歩くんだ。

どうして辛い方を選ぶかって？

ラクな道、甘い水は君たちに何も与えてくれないし、

むかい風の中にだけ他人の辛酸の声が聞こえるんだ。

真の大人というものは己だけのために生きない人だ。

…省略…

今年度も、私や先生方、皆さんのご家族だけではなく、同窓会や地域の方々など、たくさんの方たちが、皆さんの活躍を心から期待していることに変わりはありません。

引退がかかる大会へのまなざし、就職試験やセンター試験・個別試験を受験する自分へのまなざし、卒業式当日の自分へのまなざし、あるいは将来、どのように仕事に励み、社会とかかわるかへのまなざし、そんなまなざしを大切に、今を真剣に生きて欲しいと心から願っています。